

# シジミ餌に ヨーグルト

## 水総研・長崎さん 特許申請

# 成長に有効、コスト大幅減

ヤマトシジミの種苗生産に関する技術開発を行う県産業技術センター内水面研究所（十和田市）で、シジミの餌としてヨーグルトが有効であることが確認され、餌代を約200分の1に低減できたことが分かった。研究に当たったのは、現・同センター水産総合研究所（平内町）の企画経営監、長崎勝康さん（57）だ。県内有数の産地である小川原湖でも研究成果の活用が進み、経費削減に二役買っている。現在特許を申請中で、長崎さんは「シジミだけではなく他の貝類でも活用できれば」と広がり期待を寄せる。

（野村遥）

## 小川原湖で導入



長崎 勝康さん

小川原湖は、同じく主要産地の十三湖よりも水中の塩分濃度が低く、シジミの産卵が不安定になりやすい。資源確保につなげようと、内水面研究所は10年以上前から種苗生産技術の開発に取り組んでいる。

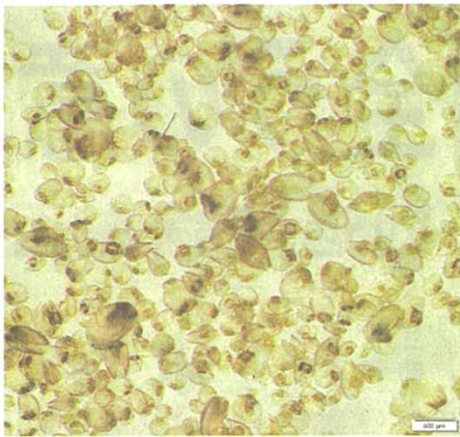
小川原湖漁協（濱田正隆組合長）は研究所と連携し、2005年度からシジミの種苗生産を行い、体長0・2ミリのまで育てた稚貝の放流を実施している。13年度には、水中で食害を受けないとされる1ミリの程度に成長させた稚貝の放流も試験的に始めた。しかし、当初シジミの餌として使っていた植物プランクトンは10リットルで3万8千円ほどと高額。採算

が合わないため、1ミリの稚貝放流の実用化は難しいと考えられていた。

内水面研究所では18、19年度、400リットルで150円ほどの無糖ヨーグルトを、飼育水で100倍に希釈し安い植物プランクトンと混ぜ合わせたものを稚貝の餌として使用。餌代はそれまでと比べ200分の1に減った。

小川原湖漁協でも、部分的にヨーグルトの餌を導入している。導入前の16年度には年間45万円かかっていた餌代が、本年度は約10分の1の4万円だった。同漁協管理課の姥名秀樹課長は「貝類に乳製品、と聞いた当初はびっくりした。ヨーグルトの餌で、経費をかなり安く抑えられるようになり、漁協の経営に大変良い方法だ」と話した。

長崎さんは「ヨーグルトを用いれば、手間をかけずに餌を安く作ることができると。シジミだけじゃなく、海の二枚貝でも活用されれば、種苗生産の負担が大きく減ると思う」と語った。



ヨーグルト入りの餌を食べたシジミ稚貝（約0・1〜0・6ミリの顕微鏡写真）。黒っぽい塊は消化中の餌（長崎さん提供）



内水面研究所で行われた給餌試験。奥側の六つのバケツにはシジミが200個ずつ入り、ヨーグルトや豆乳が餌として与えられた（長崎さん提供）

万8千円ほどと高額。採算

令和2年1月8日東奥日報 掲載

※この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。